

調査研究報告書

養子・里親斡旋問題の再検討と 改革の提言

養子と里親を考える会

代表 湯沢 雍彦

1999

財団法人 地域社会研究所

ま え が き

養子と里親を考える会会長

研究特別プロジェクト代表 湯沢 雅彦

1.

本書は、「養子と里親を考える会」の平成9年度から10年度にかけての特別プロジェクト「養子斡旋問題の比較研究と改革の提言」についての研究結果報告書である。

この会は、昭和57年の発足以来、日本における養子縁組制度とそれに関連深い里親制度について、ケースワーカー、施設職員、児童相談所や家庭裁判所の職員、大学等の研究者、養親・里親の実践者など200余名が結集して、年4回の例会のたびに、検討・討議をくり返し、特別養子法の制定や児童福祉法改正の際に意見を発表したのを始め、機関誌「新しい家族」を通してその成果を公表してきた。

しかし、それだけでは不十分なものを感じていたので、会員の中からもっと組織的で総合的な研究を行いたいという気運がもり上ってきた。そこで、平成8年度から準備を始め、25名の参加希望者を3グループ（当初は4グループ編成であったものを統合）に分けて作業を開始した。幸いにも、その趣旨が認められて、（財）地域社会研究所と（株）ライフデザイン研究所、ならびにAチームの一部については（財）安田生命社会事業団の研究委託費を頂くことができた。おかげさまで経費面の心配がなくてすんだことを深くお礼申し上げます。後者の報告は平成9年度に提出済であるので、本書は前二者に対する報告書である。